

県立多治見病院 緩和ケア病棟便り

2025年5月号

発行：岐阜県立多治見病院緩和ケア病棟

【イベント予定】

岐阜県立多治見病院 緩和ケア病棟 行事予定表



2025年 6 月



日	月	火	水	木	金	土
1	2 14時～ マジックショー	3 15時～ ティーサービス	4 14時～ ふれあい喫茶	5 14時～ ハーモニカ演奏	6	7
8	9	10 14時～ ピアノ演奏 15時～ ティーサービス	11 14時～ ふれあい喫茶	12 14時～ 讃美歌とピアノ	13	14
15	16 14時～ 音楽療法	17 14時～ 園芸療法 15時～ ティーサービス	18 14時～ ふれあい喫茶	19 14時～ ふれあい喫茶	20 14時～三線	21
22	23	24 15時～ ティーサービス	25 14時～ ふれあい喫茶	26 14時～ ハープ演奏	27 14時～ 法話	28 14時～アニマルセラピー(もも)
29	30					
		※病棟のイベントは、緩和ケア病棟を退院した患者さんやその家族も参加できます。 都合により参加できない場合や中止の場合もあります。お電話か以下のメールでご確認ください。 電話：0572-22-5311（内線：7493 緩和ケア病棟師長） メール：kanwa@tajimi-hospital.jp				

【コラム】

≪『麦茶冷えてる当たり前のしあわせ』西田真己≫



私たちの日常生活では、麦茶の冷えてる事も小さな幸せの1つ。『何気ない日常』『当たり前の幸せ』こそが尊いのだと静かに教えてくれます。

6月は夏本来を意味する『仲夏』と呼ばれています。実際は初夏のイメージが強く、梅雨の季節でもあります。7月の梅雨明けまで雨が降りやすい天気が続きます。6月下旬になると気温が上昇し蒸し暑さを感じるようになり、一般に熱中症予防が話題となります。また「田植え」「紫陽花」「ラベンダー」など行事や植物などがあります。

このような日々の中、『心にポッカリ穴が開く』という記事がありました。大切なものを失った時の悲しみや虚しさが原因で、心の一部が欠けてしまった状態を示しています。「先日、妻の法事の席で和尚さんに『心に開いた穴はふさがりません』と言われたんだよ」続けて「『それは、あの世に逝った人と通じるための穴なのです。これからも無くなることはありません。穴と共に生きて下さい』ってね。肉体に触れることはできないけど、今も心の中にあいつが住んでいて、いつも一緒にいる感じがするんだよ」と。心に穴が開くことは決して悪いことではない。開いているからあの世のカミさんと話ができる。その穴は心のトンネルなのだ。ひとりで家に帰り「ただいま」と言うと「お帰り」と聞こえたり、つい「美味しいね」と言葉に出したりすることがあり、それこそ当たり前の幸せなのではと思ひ至ります。私たちも心のトンネルを大事にしていきたいと思ひますね。

梅雨を前に、庭園に植えてあったニンニクとじゃが芋を収穫し、スタッフで分けました。さらにピオラ、パンジーを取り除き、マリーゴールド、日日草、ジニア(百日草)をボランティアの奥村造園様より頂き植えました。咲く事を思い浮かべて、毎日水やりをしています。



ボランティアコーディネーター：河村銘子

